

身近な地域スポーツ促進事業

1 はじめに

各地域において、スポーツを活用したコミュニティや健康で活力ある長寿社会の構築を図るため、平成26年度より身近な地域スポーツ促進事業を実施しています。本事業では、より多くの人が、スポーツに参加できる機会を創出し、スポーツ未実施率の縮減につなげる取り組みを推進しています。

2 本年度の取り組み

○「地域スポーツ推進協議会」の開催

本事業では、県内スポーツ関係団体代表者や各市町村代表者を地域スポーツ委員に委嘱して、身近な地域スポーツ活動の活性化に取り組む協議会を年3回開催しています。

運動・スポーツをしたくてもできない人や興味のない人に、運動・スポーツの機会を提供できるよう、参加促進につながる効果的な次の4つのアプローチに重点をおき、各市町村で取り組みを実施しました。

- A より身近な地域に「出向く」
- B 運動未実施者に対する運動との「接点」を考える
- C 関係部署・団体との連携を考える
- D 広報等の周知方法を工夫する

「やまなしスポーツ推進プログラム」では平成30年度までに未実施率を20%未満とすることを目標としており、ここ3年間、これに近い値で推移しています。県政モニター調査スポーツ未実施率 H29:20.0% (H25:40.5% H26:22.4% H27:20.1% H28:19.7%)

○「未来へ繋げるスポーツの力」講演会開催

オリンピックと市民スポーツの関わりについての理解を深め、スポーツへの参加促進や指導者の指導意欲の向上につなげるため、オリンピック・パラリンピアンによる講演会を開催しています。

本年度は、10月22日(日)に、山梨市民会館にて、リオデジャネイロオリンピック陸上400mハードル日本代表の野澤啓佑氏と、トリノオリンピックスキーフリースタイルエアリアル日本代表の逸見佳代氏を講師に迎え、

教育庁スポーツ健康課

基調講演では、野澤氏に「リオ五輪から現在」、逸見氏に「オリンピックとその先に続く道」と題してご講演をいただきました。

さらに、講師のお二人と山梨県地域スポーツ推進協議会会長 飯田忠子氏をパネリスト、山梨学院大学准教授 長倉富貴氏をコーディネーターに、パネルディスカッションを行いました。「未来へ繋げるスポーツの力」をテーマに、これからの山梨のスポーツ活動について、参加者とともに考える機会となりました。



○「スポーツ推進計画」の策定と「スポーツ推進会議等」の設置に向けて

スポーツ未実施率の縮減につなげる取り組みとして、各市町村に「スポーツ推進計画の策定」と「スポーツ推進会議等」の設置を推進しています。

各市町村でスポーツに関わる多様な主体が連携・協働し、計画的に地域のスポーツ振興を図ることを目的としています。

山梨県内 27 市町村 (H29 現在)

スポーツ推進計画策定済み 66.7%

スポーツ推進会議等 37.0%

○全国の先進事例に学ぶ

これらに加え、協議会の代表を広島県で行われた「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2018」に派遣し、全国の動向や先進事例を第3回協議会をとおして各市町村に還元しました。

3 今後の取り組み

来年度以降も多様な主体が連携した取り組みを促進させ、各地域で住民が一層スポーツに親しめるようになり、コミュニティが活性化するように、本事業の充実を図って参ります。